公益社団法人２０２７年国際園芸博覧会協会
第25回理事会
次第

１　議決事項

第１号議案　2025年度 事業計画及び収支予算・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３
資料１　2025年度 事業計画書（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ５
資料２　2025年度 正味財産増減予算書（案）・・・・・・・・・・・・・・・・P11
資料３　2025年度 資金調達及び設備投資の見込み（案）・・・・・・・・・・P17
資料４　2025年度 借入限度額（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P19
第２号議案　役員賠償責任保険 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P21
第３号議案　財務委員会の委員の選任 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P23
資料５　財務委員会委員名簿 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P25
第４号議案　事務次長の職務権限規程の改正 ・・・・・・・・・・・・・・・・・P27
資料６　公益社団法人２０２７年国際園芸博覧会協会 事務次長の職務権限規程（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P29
資料７　公益社団法人２０２７年国際園芸博覧会協会 事務次長の職務権限規程新旧対照表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P31
第５号議案　理事の利益相反取引の承認 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P33
資料８　第42回全国都市緑化ぎふフェア「GREEN×EXPO 2027 PR出展」の実施に関する協定書（令和６年度）・・・・・・・・・・・・・・・・P35
資料９　第42回全国都市緑化ぎふフェア「GREEN×EXPO 2027 PR出展」の実施に関する協定書（令和７年度）・・・・・・・・・・・・・・・・P41
資料10　第41 回全国都市緑化かわさきフェア「GREEN×EXPO 2027 PR 出展」の実施に関する協定書（令和７年度）・・・・・・・・・・・・・・・P47
資料11　神奈川県職員の派遣に関する取決め・・・・・・・・・・・・・・・・P53
資料12　横浜市職員の派遣に関する取決め・・・・・・・・・・・・・・・・・P57

２　報告事項

第１号報告　会場建設費の変更・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P59
資料13　会場建設費の変更について（要請）・・・・・・・・・・・・・・・・P61
第２号報告　公式参加者の招請活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P77
資料14　公式参加者の招請活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P79
第３号報告　広報・機運醸成の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P81
資料15　広報・機運醸成の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P83

３　その他

公益社団法人２０２７年国際園芸博覧会協会
第25回理事会
議案書

議決事項　第１号議案

2025年度 事業計画及び収支予算

定款第41条第１項の規定により、2025年度の事業計画書、正味財産増減予算書（収支予算書）、資金調達及び設備投資の見込みについて、資料１から資料３のとおりとすることを提案します。

また、公益社団法人２０２７年国際園芸博覧会協会経理規程第31条第２項の規定により2025年度の借入限度額について資料４のとおりとすることを提案します。

【参考条文】

〇公益社団法人２０２７年国際園芸博覧会協会 定款

第41 条 協会の事業計画書及び収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度開始の日の前日までに、代表理事が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

〇公益社団法人２０２７年国際園芸博覧会協会　経理規程

第31条 前条に定める収入により、なお資金が不足する場合、又は不足するおそれがある場合には、金融機関等からの借入金により調達するものとする。

２ 金融機関等からの借入による資金の調達は、理事会の承認を受けた範囲内で経理責任者がこれを行う。

・資料1　2025年度 事業計画書（案）
・資料2　2025年度 正味財産増減予算書（案）
・資料3　2025年度 資金調達及び設備投資の見込み（案）
・資料4　2025年度 借入限度額（案）

資料１

公益社団法人２０２７年国際園芸博覧会協会

2025 年度 事業計画書（案）

（2025 年４月１日から 2026 年３月 31 日まで）

2025 年度は、開幕まで２年を切り、各分野の計画を具体化して実装を進める段階であり、全国的な機運醸成と入場券販売に向けたプロモーションを本格化していく年となります。

公式参加者に対しては、引き続き参加招請を進めるとともに、参加契約締結に向けた手続や契約締結後の出展に向けたフォロー、敷地の引き渡し等を行います。

会場整備では、博覧会の開催準備に向けて会場整備（インフラ）工事を着実に進めるとともに、造園工事及び仮設建築工事に着手します。

市民・企業・団体の参加については、参加企業や花・緑団体等と出展に向けた調整をしていくとともに、博覧会を作り上げる共創パートナーの募集を進めていきます。

持続可能性に向けた取組として、サステナビリティ戦略等に基づく事業の推進・検討等を行うとともに、持続可能性に配慮した調達コードに基づき、環境負荷の低減など持続可能性に配慮した調達を進めます。

１ 認知拡大・機運醸成に関する事業の実施

（１） 多様な機会を活用した取組

・入場券の販売促進を図るため、開幕までの節目となる 500 日前、１年前や入場券販売開始時期等を念頭に集中的なプロモーションを展開します。

・交通広告や誌面等、各種メディアを活用した広報を行います。

・公式ホームページ、インスタグラム等の公式 SNS を活用した情報発信を行います。

・公式マスコットキャラクター等を活用した公式グッズの販売等、ライセンス事業を展開します。

（２） 多様な主体との共創による取組

・参加者、国、開催自治体等と連携し、関連イベント等の機会を活用したプロモーションを展開します。

・若年層への博覧会のテーマ・開催意義の浸透や SDGs の行動促進等を目的とした、学生向け教育プログラムを実施します。

・教育旅行を含む団体旅行の誘致・プロモーションを行います。

・ボランティアセンターを開設し、募集を開始します。

・市民参加（共創）プログラムの準備を行います。

・大阪・関西万博と連携し、相互のＰＲを行います。

２　公式参加者招請活動及び公式参加者への支援

（１）　外国政府・国際機関への参加招請活動

・政府・関係機関と連携しながら、外国政府・国際機関への参加招請を進めるとともに、参加契約締結に向けた手続等を進めます。

（２）　公式参加者（参加を表明した外国政府・国際機関）への支援

・公式参加者の出展準備等への支援を行うとともに、各種問合せ対応や様々な手続を一括で実施できる体制の構築を行います。

・公式参加者の出展準備が円滑に進むよう、建設に関する支援等を行うプロジェクトマネージャー等の配置を検討します。

（３）　途上国支援プログラムの構築

・途上国の公式参加者の参加を支援するための仕組みの検討を行います。

（４）　第９回アフリカ開発会議（以下「TICAD９」という。）と連動した広報・参加招請等

・８月に横浜で開催されるTICAD９の機会を活用し、広報・参加招請等を実施します。

（５）　国際園芸家協会（以下「AIPH」という。）及び博覧会国際事務局（以下「BIE」という。）との調整等

・博覧会の成功に向け、AIPH及びBIEとの各種会議での進捗報告や、現地視察の受入れや会談を行うとともに、各事務局と連絡・調整を行います。

・特別規則等について、政府関係省庁と連携し、BIE総会での承認等を得て策定していきます。

３ 各分野の事業の実施

（１）　会場整備

・2024年度に引き続き会場整備（インフラ）工事を行うとともに、造園工事及び仮設建築工事に着手します。また、出展者への敷地引渡しを開始します。

（２）　輸送対策

・来場者輸送実施計画を早期に策定し、これに基づき会場周辺の混雑緩和対策やシャトルバスの運行計画等について関係者と調整を進めます。また、来場者輸送実施計画は、検討の進捗に合わせて更新を行います。

（３）　植物監理

・植物監理・調達・維持管理に関する検討の深度化を図ります。

・植物調達パートナー等と連携し、植物の調達を進めます。

（４）　展示

・主催者展示（テーマ館展示及び園芸文化展示）について、展示物の制作に着手します。また、運営計画の検討を進めます。

（５）　**出展・出店**

ア　一般参加者出展

・Village 出展者の出展に向けた手続や展示内容の調整等を実施するとともに、出展者向け説明会を開催します。

・花・緑出展者の出展に向けた手続や展示内容の調整等を実施するとともに、出展者向け説明会を開催します。

イ　営業出店

・テーマ営業出店者の出店に向けた手続や営業内容の調整等を実施するとともに、出店者向け説明会を開催します。

・来場者に飲食・物販サービスを提供するために、一般営業出店の募集を開始します。

ウ　政府出展

・政府出展について、国土交通省・農林水産省による展示内容・管理運営・行催事・広報等の実施計画の検討、屋内展示の工事計画の検討及び屋外展示の実施に係る業務に参画します。

エ　コンペティション

・コンペティションに関する規則の公表に向け、賞体系等の検討を行うとともに、参加ガイドラインの策定準備を進めます。

（６）　**行催事**

・主催者催事の実施に向けた個別計画の策定を行います。

・魅力的な博覧会の実現のために、行催事への参加勧奨や協賛募集を行います。

・催事管理センターを開設し、催事の募集を開始します。

・開閉会式、ナショナルデー、スペシャルデーの実施に向けた調整を進めます。

（７）　**協賛**

・博覧会の魅力向上に向けて、プロジェクト協賛及び一般協賛などを通じ共創パートナーの募集を行います。

（８）　**来場者サービス・運営管理**

・満足度の高い来場者サービスを提供するため、来場者サービス基本計画を策定し、引き続き、実施計画策定に向けた検討を行います。

・博覧会会場内外のサインや情報媒体など情報提供サービスの具体化に向けた検討を進めます。

・様々な来場者の移動を補助するため、会場内の輸送サービス導入に向けた調整を行います。

・来場者が快適に過ごせるよう、ハード・ソフト両面から様々な暑さ対策を検討します。

・会場内の快適性と美観を維持するため、会場内清掃・廃棄物管理基本計画を策定し、引き続き、実施計画策定に向けた検討を行います。

・公式参加者の展示物品等の搬入に備え、会場内を保税展示場とする手続を開始します。

（９）　**儀典接遇**

・賓客等への適切な接遇を行うため、接遇基本計画を策定します。

（１０）　**ＩＣＴ基盤・サイバーセキュリティ環境の整備**

・博覧会の円滑な運営のため、ＩＣＴ実施設計を行い環境整備に着手します。

・関係機関と連携し、サイバーセキュリティ対策の運用に向けた検討を進めます。

（１１）　**入場券販売**

・入場券販売開始に向け、券種等の検討を行い、販売体制の構築を進めます。

（１２）　**危機管理体制の構築**

・安全安心な会場づくりに向け、警備基本計画、消防・防災基本計画、医療救護基本計画、会場衛生基本計画を策定し、引き続き、各実施計画策定に向けた検討を行います。

・円滑に開催準備・博覧会運営を進めるため、想定されるリスクの洗い出しや評価を基に、リスク対策や保険への加入等の検討を行います。

（１３）　**持続可能性・インクルーシブに向けた取組**

ア　サステナビリティに関する取組

・生物多様性や気候変動対策をはじめ、サステナブルな博覧会を実現するため、サステナビリティ戦略等に基づく事業の推進・検討等を行います。

・環境や人権、労働など、サステナブルなイベントの運営を実現するため、イベント・サステナビリティマネジメントシステム（ESMS）の構築等を行います。

・サステナビリティの取組を報告し、レガシーとして継承するため、サステナビリティレポートを作成します。

・持続可能性に配慮した調達を行うため、調達コードを運用します。

イ　アクセシビリティに配慮した取組

・アクセシビリティ・ガイドラインに基づき、博覧会会場の整備、運営の準備を進めます。また、参加企業・団体等に対して、アクセシビリティに配慮した取組への理解促進を図っていきます。

４　事務局体制の整備・強化と健全な財務運営

（１）　事務局体制の整備・強化

・国・経済界・自治体等から多様な人材を確保し事務局体制を強化します。

・現場事務所の適切な管理・運用の推進を図ります。

（２）　ガバナンス機能の強化

・継続的なコンプライアンスの推進に向け、外部の有識者を加えたコンプライアンス委員会を定期的に開催します。

・入札・契約における適正な競争環境や適切な履行の確保を図ります。

（３）　効果的・効率的な予算の管理・執行

・資金計画に基づく資金調達・予算管理を行います。

・予算執行段階における事業実施方法の検証、コスト削減を行います。

（４）　財務基盤の強化に向けた資金調達

・寄附金の募集・拡充に向けた取組を進めます。

・補助金等の各種資金の確保に向けた調整を図ります。

資料２

2025年度　正味財産増減予算書（案）

2025年４月１日から2026年３月３１日まで

（単位：千円）

科　　目	公益目的事業会計	法人会計	合計
Ⅰ.一般正味財産増減の部			
１.経常増減の部			
(1) 経 常 収 益			
事　業　収　益	52,800	0	52,800
ライセンス収益	52,800		52,800
受　取　寄　附　金	150	0	150
受取民間寄附金等振替額	150	0	150
経常収益計	52,950	0	52,950
(2) 経 常 費 用			
事　業　費	2,998,834		2,998,834
役員報酬	46,512		46,512
給料手当	276,299		276,299
臨時雇賃金	4,816		4,816
法定福利費	150,337		150,337
福利厚生費	2,266		2,266
旅費交通費	51,138		51,138
通信運搬費	400		400
備消品費	12,928		12,928
印刷製本費	83		83
光熱水料費	29,157		29,157
委託費	1,925,300		1,925,300
賃借料	84,015		84,015
支払報酬	163,435		163,435
広告宣伝費	210,340		210,340
負担金	40,930		40,930
減価償却費	878		878
管　理　費		340,833	340,833
役員報酬		6,878	6,878
給料手当		64,830	64,830
臨時雇賃金		24,082	24,082
法定福利費		34,614	34,614
福利厚生費		528	528
旅費交通費		4,511	4,511
備消品費		6,814	6,814
印刷製本費		19	19
光熱水料費		4,259	4,259
委託費		59,767	59,767
賃借料		18,687	18,687
租税公課		500	500
支払報酬		26,889	26,889
支払手数料		2,000	2,000
支払利息		82,470	82,470
減価償却費		3,985	3,985
経常費用計	2,998,834	340,833	3,339,667
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 2,945,884	△ 340,833	△ 3,286,717
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 2,945,884	△ 340,833	△ 3,286,717
２.経常外増減の部			
(1) 経 常 外 収 益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経 常 外 費 用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 2,945,884	△ 340,833	△ 3,286,717
一般正味財産期首残高			△ 2,100,903
一般正味財産期末残高			△ 5,387,620
Ⅱ.指定正味財産増減の部			
受 取 補 助 金 等	10,620,372	0	10,620,372
受取国庫補助金	5,310,785	0	5,310,785
受取地方公共団体補助金	5,309,587	0	5,309,587
受 取 寄 附 金	5,309,590	0	5,309,590
受取民間寄附金等	5,309,590	0	5,309,590
一般正味財産への振替額	△ 150	0	△ 150
当期指定正味財産増減額	15,929,812	0	15,929,812
指定正味財産期首残高			964,604
指定正味財産期末残高			16,894,416
Ⅲ.正味財産期末残高			11,506,796

資料３

事業年度	自	2025 年 4 月 1 日	法人名	公益社団法人
	至	2026 年 3 月 31 日		２０２７年国際園芸博覧会協会

2025 年度 資金調達及び設備投資の見込み（案）

（1） 資金調達の見込みについて

（単位：千円）

借入の予定	あり	
借入先	金額	使途
横浜銀行	3,054,904	運転資金として

（2） 設備投資の見込みについて

（単位：千円）

設備投資の見込み	あり	
設備投資の内容	支出予定額	資金調達方法
会場整備にかかる設計・工事等	15,701,062	受取補助金等
器具及び備品	1,800	借入金

議決事項　第４号議案

事務次長の職務権限規程の改正

定款第22条第２項の規定により、公益社団法人２０２７年国際園芸博覧会協会の事務次長の職務権限規程について、別紙資料６のとおり改正することを提案します。

資料６　公益社団法人２０２７年国際園芸博覧会協会 事務次長の職務権限規程 （案）

（参考資料）
資料７　公益社団法人２０２７年国際園芸博覧会協会 事務次長の職務権限規程新旧対照表

【参考条文】
〇公益社団法人２０２７年国際園芸博覧会協会 定款
第22 条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。
２ 会長及び事務総長は、法令及びこの定款で定めるところにより、協会を代表し、その業務を執行し、事務次長は事務総長を補佐し、理事会において別に定めるところにより、協会の業務を分担執行する。

資料６

公益社団法人２０２７年国際園芸博覧会協会

事務次長の職務権限規程（案）

2022年５月19日制定
2025年３月21日最近改正

（目的）

第１条　この規程は、公益社団法人２０２７年国際園芸博覧会協会（以下「協会」という。）の定款第22条第２項の規定に基づき、事務次長の職務権限に関し必要な事項を定めることを目的とする。

（所掌事務）

第２条　事務次長の所掌事務は、次の表に定めるとおりとする。

担当	所掌事務
佐藤 速水 事務次長	事業部、展示部、出展部、植物部の事務に関すること。
小池 政則 事務次長	監査課、総務部、財務部、企画調整部、整備部、交通対策室の事務に関すること。
栗本 尚幸 事務次長	財務部、機運醸成部、事業部の事務に関すること。
八山 幸司 事務次長	サステナビリティ推進部、国際部、事業部、運営部の事務に関すること。

ただし、組織改編があった場合には従前の事務を引き続き所掌する。また、重要事項及び各部・室にまたがる事項については、上記の規定にかかわらず、相互に連携するものとする。

（細則）

第３条　この規程に定めるもののほか、この規程の実施に必要な事項は、理事会の決議により定める。

（改廃）

第４条　この規程の改廃は、理事会の決議を経て行う。

附　則

この規程は、2022 年５月 19 日から施行する。

附　則
この規程は、2023 年３月９日から施行する。

附　則
この規程は、2023 年６月 13 日から施行する。

附　則
この規程は、2023 年７月１日から施行する。

附　則
この規程は、2025 年１月１日から施行する。

附　則
この規程は、2025 年１月 20 日から施行する。

附　則
この規程は、2025 年４月１日から施行する。

資料７

公益社団法人２０２７年国際園芸博覧会協会
事務次長の職務権限規程　新旧対照表

<table>
<tr><th>新</th><th>旧</th></tr>
<tr><td>
2022年５月19日制定
2025年３月21日最近改正

第１条　略

（所掌事務）
第２条　事務次長の所掌事務は、次の表に定めるとおりとする。
<table>
<tr><th>担当</th><th>所掌事務</th></tr>
<tr><td>佐藤 速水
事務次長</td><td>事業部、展示部、出展部、植物部の事務に関すること。</td></tr>
<tr><td>小池 政則
事務次長</td><td>監査課、総務部、財務部、企画調整部、整備部、交通対策室の事務に関すること。</td></tr>
<tr><td>栗本 尚幸
事務次長</td><td>財務部、機運醸成部、事業部の事務に関すること。</td></tr>
<tr><td>八山 幸司
事務次長</td><td>サステナビリティ推進部、国際部、事業部、運営部の事務に関すること。</td></tr>
</table>
ただし、組織改編があった場合には従前の事務を引き続き所掌する。また、重要事項及び各部・室にまたがる事項については、上記の規定にかかわらず、相互に連携するものとする。
（中略）

附　則
この規程は、2025 年１月 20 日から施行する。

附　則
この規程は、2025 年４月１日から施行する。
</td><td>
2022年５月19日制定
2025年１月20日最近改正

第１条　略

（所掌事務）
第２条　事務次長の所掌事務は、次の表に定めるとおりとする。
<table>
<tr><th>担当</th><th>所掌事務</th></tr>
<tr><td>佐藤 速水
事務次長</td><td>事業部、運営部、展示部、出展部、植物部の事務に関すること。</td></tr>
<tr><td>小池 政則
事務次長</td><td>監査課、総務部、財務部、企画調整部、整備部、交通対策室の事務に関すること。</td></tr>
<tr><td>栗本 尚幸
事務次長</td><td>財務部、機運醸成部、事業部の事務に関すること。</td></tr>
<tr><td>八山 幸司
事務次長</td><td>企画調整部、国際部の事務に関すること。</td></tr>
</table>
ただし、組織改編があった場合には従前の事務を引き続き所掌する。また、重要事項及び各部・室にまたがる事項については、上記の規定にかかわらず、相互に連携するものとする。
（中略）

附　則
この規程は、2025 年１月 20 日から施行する。

（新規）
</td></tr>
</table>

報告事項　第１号報告

会場建設費の変更

会場建設費を変更することについて関係機関に要請を行いましたので、資料13のとおり報告します。

【要請先】
国土交通大臣
農林水産大臣
神奈川県知事
横浜市長
一般社団法人　日本経済団体連合会　会長
横浜商工会議所　会頭

【資料】
・資料13 会場建設費の変更について（要請）

資料 13

令和 7 年 3 月 10 日

関係機関各位

公益社団法人２０２７年国際園芸博覧会協会
会　　長（代表理事）　十倉 雅和
事務総長（代表理事）　河村 正人

会場建設費の変更について（要請）

平素より GREEN×EXPO 2027（２０２７年国際園芸博覧会）の開催準備に多大なる御支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

弊協会では、SDGs、パリ協定、昆明・モントリオール生物多様性枠組み等の国際的な目標年である 2030 年の 3 年前に開催される最上位・A1 クラスの国際園芸博覧会として、国内外の幅広い皆様との共創により、環境と共に生きる社会のあり方を示し、地球規模の課題解決に向けた行動と発信を行う重要な機会とすべく、基本計画に基づく会場計画の具体化を図ってきたところです。

今般、会場建設費について、近年の急激な物価及び人件費の上昇による影響やコスト抑制策について精査を行いました。その結果、コスト抑制策に取り組んでもなお、会場建設費の変更（320 億円から最大 417 億円）が必要な見通しとなりました。

このため、閣議了解（令和 3 年 6 月 22 日付「２０２７年国際園芸博覧会の開催申請について」）に基づき会場建設費の御負担をお願いさせていただく関係機関の皆様におかれましては、会場建設費の変更について御理解を賜りたく要請いたします。

なお、運営費につきましても、人件費等の上昇による影響や 4 月から開幕する大阪・関西万博の運営状況などを見極める必要があると考えており、入場券価格の検討と併せて今後精査して参りますことにつき御理解賜りたくお願いいたします。

＜連絡先＞
公益社団法人２０２７年国際園芸博覧会協会
財務部　　経理課　045-307-2045
企画調整部　企画課　045-307-2046
〒231-0013 横浜市中区住吉町 1-13 松村ビル本館 5 階

会場建設費の見通し

2025.3.10　2027年国際園芸博覧会協会

趣旨

- GREEN×EXPO 2027の開催に向けては、SDGs、パリ協定、昆明・モントリオール生物多様性枠組み等の国際的な目標年である2030年の3年前に開催される最上位・A1クラスの国際園芸博覧会として、国内外の幅広い皆様との共創により、環境と共に生きる社会のあり方を示し、地球規模の課題解決に向けた行動と発信を行う重要な機会とすべく、基本計画に基づく会場計画の具体化を図ってきたところです。

- 今般、会場建設費について、近年の急激な物価及び人件費の上昇による影響やコスト抑制策について精査を行いました。その結果、コスト抑制策に取り組んでもなお、会場建設費の変更が必要な見通しとなりました。

項目別内訳

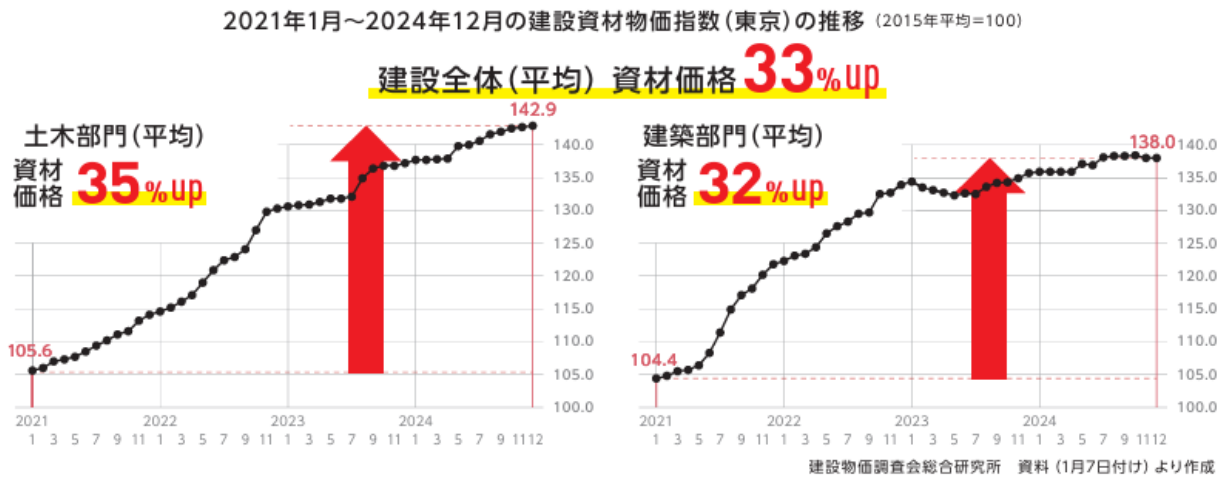
項目	金額(億円)	割合	内容
事業費	**397**	**95%**	
基盤工事	98	24%	植栽基盤等 / 給排水設備 / 電気設備 / 園路・広場 / サイン・ベンチ等 / 駐車場・ターミナル基盤（舗装・電気設備等）/ ネットワーク設備
造園工事	79	19%	主催者修景（大規模花壇・庭園 / テーマ性のある花壇・庭園）/ コモンズ（植栽）/ 出展支援（学校等の植栽支援 / 区画間の芝張り等）/ 移動式植栽等
建築工事	143	34%	
展示・出展施設	55	13%	主催者の屋内展示施設（内装・展示物製作等）/ 出展者向け屋内出展共同施設
行催事施設	10	2%	ステージ / 客席上屋 / 楽屋・倉庫 / 照明・音響・映像設備
サービス施設	49	12%	飲食・物販施設 / 案内所・救護センター等 / トイレ / 休憩所・団体用施設
管理運営施設	29	7%	入場ゲート / 管理施設 / 植物バックヤード・物流施設等 / 輸送本部・輸送運営要員詰所等
調査計画・設計	49	12%	施設設計 / 発注者支援 / 工事監理 / 植物監理 / 環境影響評価
撤去・復旧	27	7%	
予備費	**20**	**5%**	事業費の5%相当額
合計	**最大 417**	**100%**	

※各項目で単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある

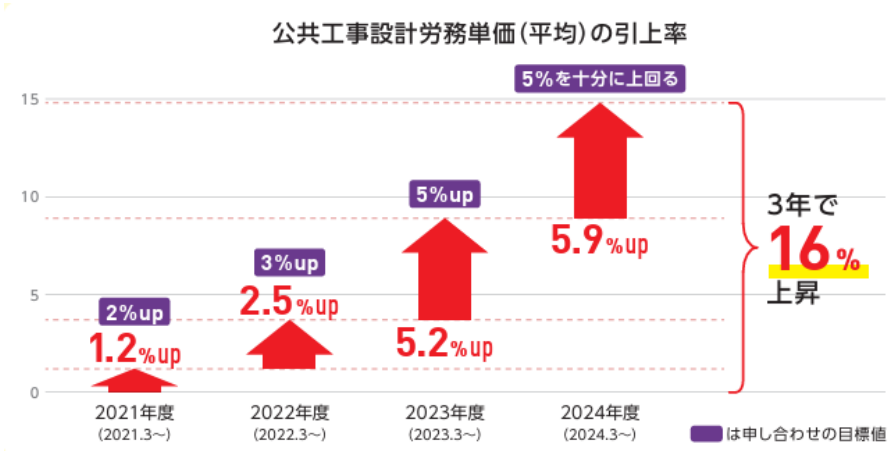
物価上昇の影響

従前の資金計画策定（2021年）以降、建設工事に係る資材費・労務費はともに大きく上昇

資材費



労務費



《出典》日本建設業連合会「建設工事を発注する民間事業者・施主の皆様に対するお願い」「建設資材高騰・労務費の上昇等の現状」 パンフレット（2025年1月版）

物価上昇影響額の試算

今後も同様のペースで物価上昇が続くと仮定して影響額を試算すると、＋111億円（＋35%）増加

単位：億円

年度	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	合計
当初執行想定額※1	－	5	12	41	138	104	11	9	**320**
物価上昇影響額	－	**＋0.2**	**＋1**	**＋9**	**＋47**	**＋45**	**＋4**	**＋4**	**＋111**
資材費上昇率（前年比）※2	＋13.3%	＋9.7%	＋3.2%	＋3.8%	＋7.4%	＋7.4%	＋7.4%	＋7.4%	
労務費上昇率（前年比）※3	＋1.2%	＋2.5%	＋5.2%	＋5.9%	＋6.0%	＋4.9%	＋4.9%	＋4.9%	

※1　当初執行想定額は、年度毎の執行予定額として当初想定していたもの

※2　資材費上昇率は、2023年度までは各年度3月末時点の公表値。2024年度以降は直近4か年平均を用いて機械的に延長した推計値
（2024年度は、2025年1月までの公表値と、2月から3月までは直近4か年平均を用いて機械的に延長した数値とを用いて試算した推計値）

※3　労務費上昇率は、2025年度までは公表値。2026年度以降は直近4か年平均を用いて機械的に延長した推計値

※4　各項目で単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある

コスト抑制策

博覧会の演出・機能等を低下させずにコスト抑制を図るため、施設機能の複合化等を行い、▲34億円（▲8%）削減

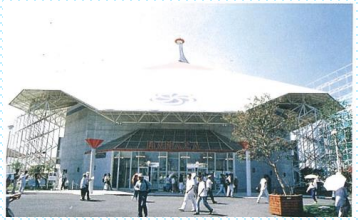
施設機能の複合化　▲18億円

■ **大催事場**
大規模なステージ・客席上屋等の整備を中止。開閉会式を他の中小規模の催事場とテント等のスポット的な追加で開催する想定に変更。

■ **迎賓館**
外装・インフラ・廊下等の共用や作業のスケールメリットによるコスト抑制を図るため、他の施設に併設する計画に変更。

大阪花の万博（1990年）における催事場の例

メインホール
（4,000席/本設建築）



テアトル花座
（500席/仮設建築）

簡素化　▲12億円

■ **営業施設**
外装材、足場組み等の作業工程、リース建築の加工・復元等に関するコスト抑制を図るため、建物や植栽・日除けターフ・看板等の配置を工夫し、視野に入らない建物の裏側・側面等の外装を簡素化。

外装装飾あり
（イメージ）

外装装飾なし
（裏側・側面に使用）

実施水準のメリハリ　▲ 4億円

■ **花修景**
材料、花の密度、株あたりの単価等の組合せにおいて、季節ごとの変化など演出を低下させずにメリハリをつける工夫を行うことでコストを抑制。
具体的には、過去の園芸博と同様の1年草による華やかな演出だけでなく、区画によって、宿根草を混栽したナチュラルな演出や、開花時期を調整しながら季節感を出す播種・球根も活用。

1年草による華やかな演出
（イメージ）

宿根草を混栽した
ナチュラルな演出（イメージ）

予備費

今後の予測できない事態にも的確・迅速に対応できるよう、

事業費（予備費を除いた397億円）の5%程度である20億円を確保

確保水準の考え方

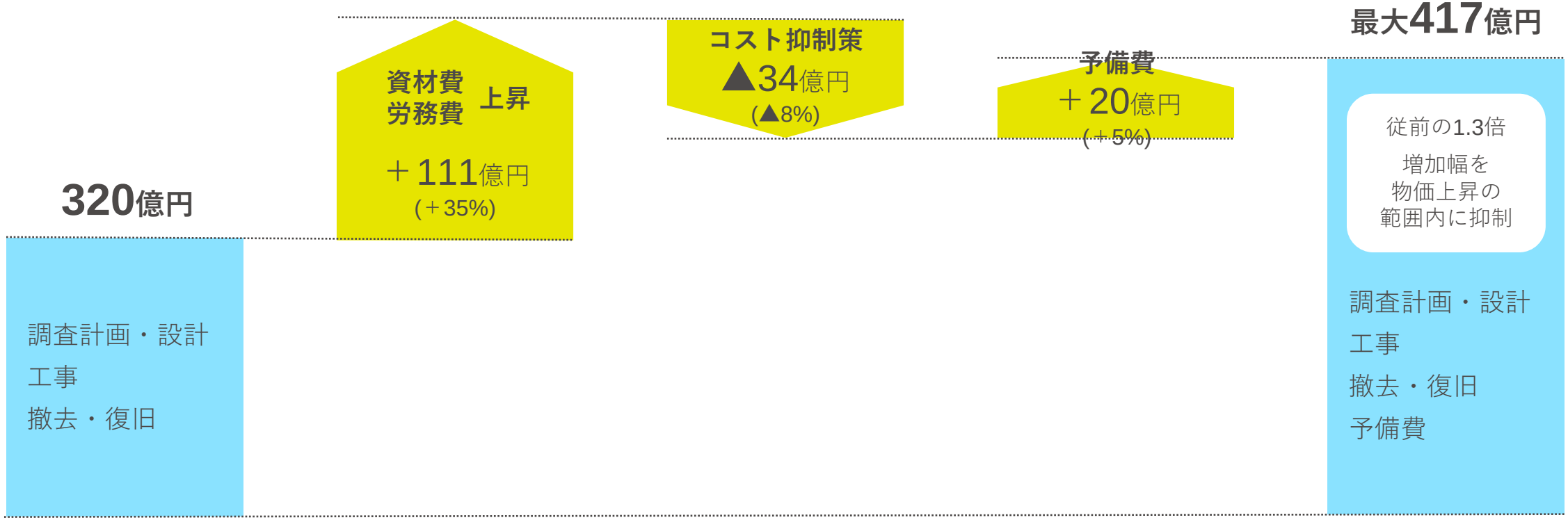
- 今回の物価上昇影響額の試算にあたっては、博覧会終了（撤去・復旧を含む）まで近年と同様のペースで物価上昇が続くことを想定済みだが、博覧会終了まで複数年を残しているため、想定を上回る物価上昇が生じた場合への備えが必要。
- 屋外中心の会場のため気象条件の変化による影響を受けることを踏まえ、異常気象・災害等に対応するための対策強化や緊急補修等への備えが必要。

執行の考え方

- 執行にあたっては、具体的な使途の妥当性について、国・地方自治体での各年度予算編成過程における審査等の機会を通じて、関係機関と十分に協議を行う。

会場建設費の見通し

物価・人件費の上昇の影響、コスト抑制策、予備費の確保を反映し、
最大<u>417億円</u>（従前の1.3倍 / ＋97億円増加）となる見通し



※各項目で単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある
※図形の大きさはイメージで、大きさと金額は一致しない

《参考資料》主な整備内容

2025.3.10　２０２７年国際園芸博覧会協会

会場図

※建物の形状や配置を含め、現時点のイメージ

面積	■ 約118.1ha (会場 約75.2ha / 駐車場・バスターミナル 約42.9ha)
来場者数	■ 有料来場者数 1,000万人以上 ■ 1日あたり来場者数 設計基準※ 10.5万人 平日平均　5.3万人 休日平均　7.7万人 ※ゴールデンウィーク等の特異日を除いた最大値から設定
開催期間	2027年3月19日(金)～9月26日(日)

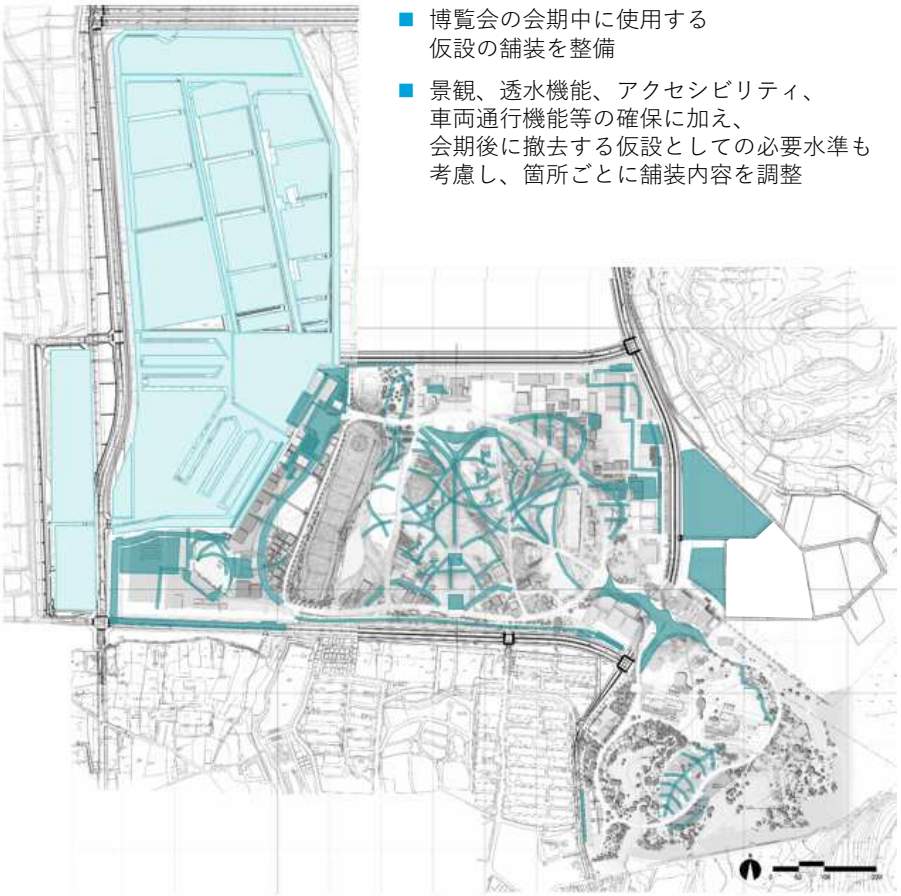
基盤工事

主な整備内容

項目	主な整備内容の例 (想定数量は概数)
植栽基盤等	土壌改良 (10ha)
給排水設備	給水管 (13km) 雨水側溝 (3km)
電気設備	電線 (9km)
園路・広場	舗装 (15ha)
サイン・ベンチ等	サイン・表示板 (840基) ベンチ(1,400基)
駐車場・ターミナル基盤	電線 (9km) 雨水側溝 (9km) 舗装 (37ha)
ネットワーク設備	アクセスポイント (150台)

《参考》横浜スタジアムの面積 約2.6ha　横浜駅～川崎駅の距離 約10km

整備箇所の例（舗装）



- 博覧会の会期中に使用する仮設の舗装を整備
- 景観、透水機能、アクセシビリティ、車両通行機能等の確保に加え、会期後に撤去する仮設としての必要水準も考慮し、箇所ごとに舗装内容を調整

透水性
脱色アスファルト舗装
（イメージ）

透水性
アスファルト舗装
（イメージ）

砂利舗装
（イメージ）

造園工事

主な整備内容

項目	主な整備内容の例 (想定数量は概数)
主催者修景	大規模な花壇・庭園等 (9ha)
コモンズ	植栽 (6ha)
出展支援	学校等の植栽支援/区画間の芝張り等 (協会整備5ha)
移動式植栽等	コンテナ (170基) ハンギングバスケット (100基)

《参考》横浜スタジアムの面積 約2.6ha

整備箇所の例（コモンズ）

整備箇所の例（主催者修景）

※建物の形状や配置を含め、現時点のイメージ

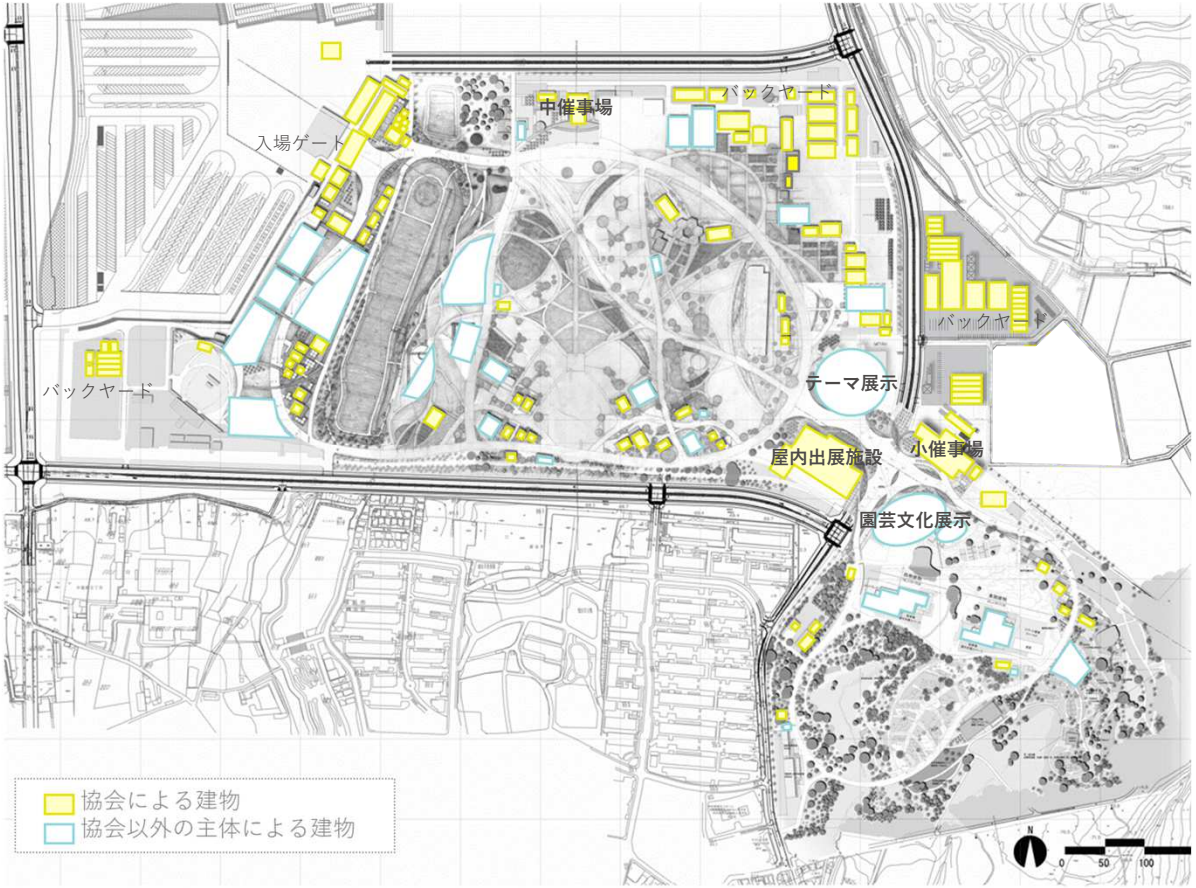
建築工事

主な整備内容

項目	整備内容の例 (想定数量は概数)
テーマ展示/ 園芸文化展示	仮設内装・設備、展示物製作等 （テーマ展示　3,900㎡） （園芸文化展示 1,500㎡） ■ いずれも、公園施設として整備される建物の内部空間を利用
植物交流館	植物交流館 (700㎡) 仮設建築、展示物製作等
屋内出展施設	仮設建築 (4,100㎡)
行催事施設	中催事場 (1,100㎡※・500席) 小催事場 (　900㎡※・200～300席) ※ステージ・客席のほか、バックヤードを加えた面積
サービス施設	飲食施設 (8,500㎡) 物販施設 (1,500㎡) 案内所　(　340㎡) 複合棟〔発券所・救護センター等〕(2,200㎡) トイレ　(2,300㎡) 休憩所・団体用施設 (2,200㎡)
管理運営施設	入場ゲート (500㎡) / 管理施設 (4,100㎡) 植物バックヤード・物流施設等(8,000㎡) 輸送本部・輸送運営要員詰所等(3,200㎡)

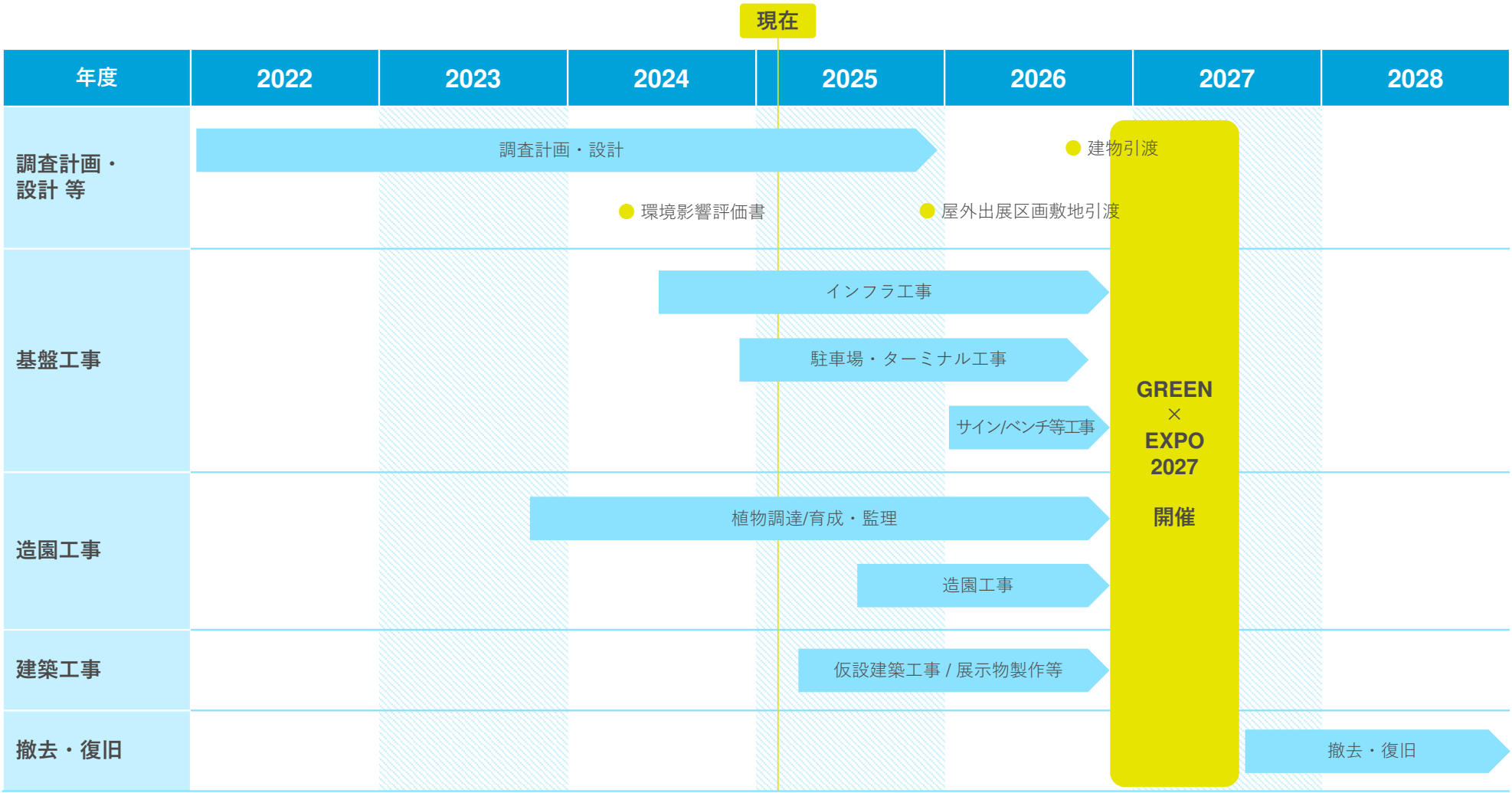
《参考》バスケットコートの面積 約400㎡

整備箇所の例（建物）



※協会以外の主体による建物は、現時点の想定であり、各主体との個別の調整状況や検討状況を反映したものではありません

会場整備スケジュール


現在
年度
2022
2023
2024
2025
2026
2027
2028
調査計画・設計 等
調査計画・設計
建物引渡
環境影響評価書
屋外出展区画敷地引渡
基盤工事
インフラ工事
駐車場・ターミナル工事
サイン/ベンチ等工事
GREEN × EXPO 2027 開催
造園工事
植物調達/育成・監理
造園工事
建築工事
仮設建築工事 / 展示物製作等
撤去・復旧
撤去・復旧

報告事項　第２号報告

公式参加者の招請活動

公式参加者の招請活動について、資料14のとおり報告します。

【資料】

・資料14 公式参加者の招請活動

公式参加者の招請活動

資料14

BIEキャパシティビルディングプログラム(ペルー)
（2024年12月2日・3日）

大阪・関西万博IPM
（2025年1月15日・16日）

カタール国責任者訪日
（2025年2月25日・26日）

駐日外交団向け説明会
（2025年2月27日・3月4日）

- 国内では博覧会政府委員や開催地自治体と連携し、130を超える駐日大使訪問や、各種会議・会談の場を通じて各国の首脳・閣僚・博覧会担当者に参加を呼びかけているほか、全世界にある日本大使館を通じて相手国に働きかけています。
- 2025年２月にはカタール国の出展責任者が協会や会場予定地を訪れ、今後の出展に向けた進め方について協議しました。
- 2025年２月・３月に駐日外交団向け説明会を実施し、61か国・2国際機関にご参加いただきました。当方からは建設関係の規定、GX House、日本国内における植物調達などについてご説明しました。
- 2025年３月時点で約30の国から前向きな反応を頂いており、引き続き各国・国際機関等の参加表明、契約締結に向け、国内外での参加招請に取り組みます。

報告事項　第３号報告

広報・機運醸成の取組

国際園芸博覧会開催に向けた広報・機運醸成について、資料15のとおり報告します。

【資料】

・資料15 広報・機運醸成の取組

資料15

広報・機運醸成の取組

開催２年前に向けた機運醸成の取組

■２月14日（金）～　機運醸成プロジェクト（交通広告）を開始

■２月24日（月）～　PIVOT YouTubeチャンネル配信

■３月３日（月）～　PIVOTによる都内タクシー広告配信開始

■３月10日（月）　「人・自然・生命」シンポジウム ～自然と人間との共生から幸せを創る明日の風景へ～

・主　催：「人・自然・生命」シンポジウム実行委員会
（公益社団法人 ２０２７年国際園芸博覧会協会、公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会）
・場　所: 横浜市開港記念会館講堂

■３月18日（火）　オフィシャルストアオープニング（公式ライセンス商品の販売開始）

・都内ストア：「丸善 丸の内店」
・横浜市内ストア：「横浜 ラクシスフロント店」（横浜市庁舎内）

■３月19日（水）　GREEN×EXPO 2027 開催２年前記者発表会

・開催日時：令和７年３月19日（水）
・場　　所：日本橋三井ホール

■その他
・情報発信
・イベント出展
・市県国による取組

機運醸成プロジェクト（交通広告）

機運醸成プロジェクト（交通広告）第1号

○ 2025年２月14日より、市内から首都圏まで大きなPR効果が見込まれる「交通広告」に着目した、「機運醸成プロジェクト（交通広告）」への協賛募集を開始。

○ 機運醸成プロジェクト（交通広告）の第１号として、相鉄ホールディングス株式会社と協賛契約を締結。

- GREEN×EXPO 2027の玄関口となる、**瀬谷駅・三ツ境駅の駅名標を特別仕様のデザインで掲出**
- 公式マスコットキャラクター**「トゥンクトゥンク」などをデザインしたラッピングバス及び列車**を順次運行
- 相模鉄道の車両に設置されている車内ビジョンでGREEN×EXPO 2027のPR動画の放映

（左上）瀬谷駅の駅名標、（左下）ラッピングバス、（右）ラッピング列車

「PIVOT」 YouTubeチャンネルでの配信

〇企業・団体の事業参画に向けた機運を醸成し、ターゲットを捉えたプロモーションを展開。

〇GREEN×EXPO 2027の概要や開催意義、参画方法等を対談（ラウンドテーブル）形式で分かりやすく解説。

【対談テーマ】
「グリーン×ビジネスの可能性～地球規模の課題解決に向けた日本から発信すべきアクションとは」

【出演者】※肩書は出演当時
・（株）竹中工務店 執行役員 経営企画室長　松下 完次
・東邦レオ（株） 代表取締役社長　吉川 稔
・三菱UFJリサーチ＆コンサルティング（株） フェロー
　（公社）２０２７年国際園芸博覧会協会 理事　吉高　まり
・（公社）２０２７年国際園芸博覧会協会 企画調整部長　清瀬　一浩

【PIVOTとは】
・ビジネスと学びの映像番組を配信するビジネスメディア
・経済産業省など中央省庁でも活用実績あり
・登録者数：約250万人

「人・自然・生命」シンポジウム
～自然と人間との共生から幸せを創る明日の風景へ～

1990年に開催された「国際花と緑の博覧会」の基本理念の継承、GREEN×EXPO 2027に向けた機運醸成を目的とした、(公財)国際花と緑の博覧会記念協会との連携シンポジウムを開催しました。第１回となる今回は、「人にとって緑とは何か、なぜ花を愛でるのか」をテーマに、コスモス国際賞受賞者である岩槻邦男氏による基調講演、花や緑に関する多彩なパネリストによるパネルディスカッションを行いました。

1　日 時：2025年3月10日（月）13：00～15：30
2　場 所：横浜市開港記念会館 講堂
3　内 容：
〇基調講演　東京大学名誉教授　岩槻邦男氏
〇パネルディスカッション
コーディネーター　GREEN×EXPO ラボ チェアパーソン　涌井史郎氏
パネリスト　株式会社パーク・コーポレーション　代表取締役　井上英明氏
法政大学前総長　田中優子氏
農業・食品産業技術総合研究機構 健康・感覚機能グループ長補佐　望月寛子氏
染織家　吉岡更紗氏

涌井史郎氏による趣旨説明

岩槻邦男氏による基調講演

パネリストの１人　望月寛子氏

パネルディスカッションの様子

ライセンス事業の展開（オフィシャルストア）

○ 初となるオフィシャルストア「**EXPO 2027オフィシャルストア丸善　丸の内店**」及び「**横浜　ラクシスフロント店**」の２店舗を３月１８日にオープンし、公式ライセンス商品の販売を開始。

○ 「丸善 丸の内店」では、メディア向けにゲストを招いた**オープン記念イベントを実施**し、当協会　河村事務総長、丸善ジュンク堂書店　西川代表取締役社長、マスターライセンスオフィス　西村代表、ゲスト黒谷友香さんが**テープカットセレモニー等を実施**。

オープニングイベント

丸善　丸の内店

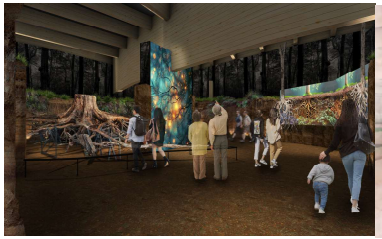
GREEN×EXPO 2027 開催２年前記者発表会

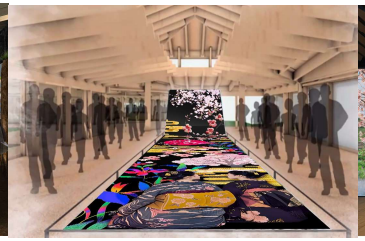
開催2年前となる2025年３月19日に「GREEN×EXPO 2027 開催２年前記者発表会」を開催し、最新の会場計画や出展内定者などを発表しました。

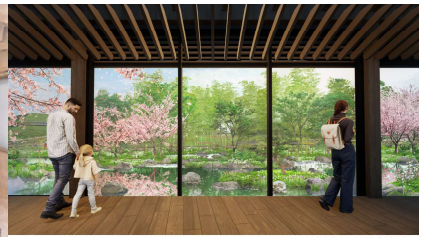
1　日時 ：2025年３月19日(水)　10:30～11:30
2　場所 ：日本橋三井ホール
3　内容 ：

〇主催者挨拶
・十倉雅和　（一社）日本経済団体連合会 会長
・山中竹春　横浜市長
・黒岩祐治　神奈川県知事

〇 最新の準備状況、出展内定者ほかの発表
・会場計画（テーマ館・園芸文化館等）の最新情報
・Village出展、花・緑出展・テーマ営業出店の概要説明
・内定者発表
・フォトセッション


テーマ館


園芸文化館


政府出展

国土交通省・農林水産省提供

2年前発表会に参加された出展内定者一同

情報発信

「GREEN×EXPO 2027通信」の発行

○主に企業や関連団体等に向け、GREEN×EXPO 2027の開催意義や進捗状況等をわかりやすく解説、紹介しています。

○協会メンバーによる外部訪問時の活用や関連団体の会議・イベント等での配布のほか、協会サイト内にて、ウェブデータを掲載しています。

創刊号　GREEN×EXPO 2027とは？

・国際条約に基づく世界的プロジェクト
　2027年国際園芸博覧会とは？
・「幸せを創る明日の風景」を実現する
　5つのコンセプトをもつ共創の舞台「Village」
・INTERVIEW　涌井史郎氏に聞く
　GREEN×EXPO 2027が目指すもの

第２号　博覧会の歴史とGREEN×EXPO 2027のテーマ

・地球規模の課題解決への貢献を目指して
・旧上瀬谷通信施設
・地元・瀬谷からGREEN×EXPO 2027を盛り上げる！
・INTERVIEW　吉高まり氏に聞く
　ネイチャーポジティブ経済の実現とGREEN×EXPO 2027

第3号　みんなで創るGREEN×EXPO 2027

・GREEN×EXPO 2027開催に向けて
　出展内定者が終結
・TALK SESSION
　スタートアップ！チームGREEN×EXPO 2027
・NEWS　最新の会場計画と新ビジュアルをお披露目

NEW

次号（第４号）は、
2025年4月発行予定

情報発信

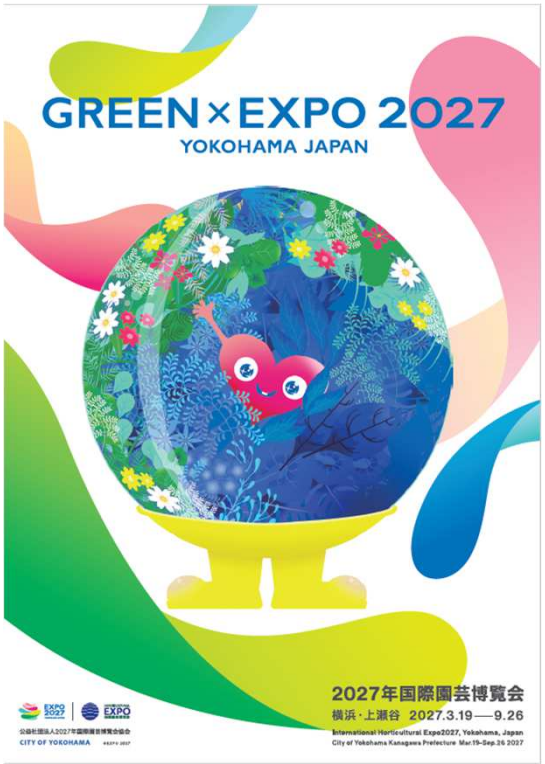
広報ツールの展開

○GREEN×EXPO 2027の更なる機運醸成・認知拡大に向け、既存の広報ツールをリニューアルしました。

新動画

市民向けパンフレット

ポスター



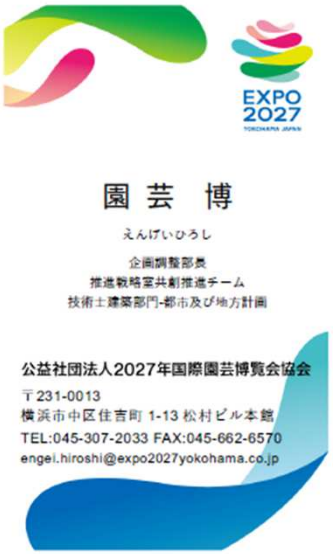
情報発信

VIに基づく広報展開

○ ＶＩ（ビジュアルアイデンティティ）を策定し、ポスターやチラシ、街なか装飾等に幅広く展開。

○ 協会が使用する名刺、封筒、リリースフォーマット、パワーポイント資料等のデザインを刷新。

名刺



封筒

リリース資料

パワーポイント資料

イベント出展

〇関係業界団体や企業の年初イベントへのPRブース出展や有識者によるトークイベントを展開。

ガーデンキュレーター協会設立総会でのプロモーション（2025年１月24日）

設立記念フォトセッション

官民連携イベントでのプロモーション

都市計画協会賀詞交歓会でのPRブース出展（2025年１月14日）

グリーンインフラ産業展2025でのPRブース出展と国土交通省部門でのパネル展示（2025年１月29日～31日）

機運醸成の取組（横浜市）

開催２年前シンポジウム

1　日　時：３月９日（日）15:00～17:00

2　場　所：関東学院大学　横浜・関内キャンパス テンネー記念ホール

3　内　容：気候変動など地球規模の課題に対してGREEN×EXPOが果たす役割や、環境と共生し、自然・人・社会が共に持続するための方策など

〇テーマ：GREEN×EXPOから変わる　～環境と共に生きるということ～

〇登壇者

・基調講演　吉高　まり 氏　（公益社団法人２０２７年国際園芸博覧会協会　理事）
（三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社　フェロー）

・パネルディスカッション　※登壇者は順不同

吉高　まり 氏　※コーディネーター

肱岡　靖明 氏（国立環境研究所気候変動適応センター　センター長）

佐藤　留美 氏（特定非営利活動法人 NPO birth　事務局長）

五十嵐　康之（横浜市　脱炭素・GREEN×EXPO推進局　担当理事）

パネルディスカッションの様子

機運醸成の取組（横浜市）

開催２年前セレモニー

2025年３月19日（水）に開催２年前セレモニーを開催し、市内企業・団体の皆様にご出席いただきました。

1　日　時：2025年３月19日（水）　10:20～11:45
2　場　所：横浜市役所アトリウム
3　内　容：
　〇GREEN×EXPO 2027 最新情報の説明
　〇GREEN×EXPO 2027公式ライセンス商品紹介
　〇フォトセッション
　※主　催：横浜市（共催（公社）２０２７年国際園芸博覧会協会）

機運醸成の取組（横浜市）

横浜市庁舎におけるPR（令和７年３月末まで（予定））

「いよいよあと２年！」という期待感を持っていただけるよう、市庁舎の壁面をダイナミックに使用し、広報よこはま３月号にも掲載している会場イメージ等を展示しています。

機運醸成の取組（横浜市）

開催２年前に向けた広報プロモーション

開催２年前を契機に、更なる機運を醸成するため、都心部や新幹線発着駅である新横浜駅、地元瀬谷区等を新たなデザインにより彩りました。また、市内に乗り入れる鉄道各社の車体や車内を装飾しました。

〈横浜市営地下鉄車体広告〉

〈JR京浜東北線車内広告〉

〈馬車道駅 階段広告〉

〈新横浜駅カウントダウンボード〉

〇市営地下鉄における車体広告（ラッピングトレイン）

・相鉄線、横浜市営地下鉄

運行期間　：相鉄線 ３月末～９月末　地下鉄 ３月初旬～５月末

〇鉄道各社における車内広告（アドトレイン）

・相鉄線、横浜市営地下鉄、JR京浜東北・根岸線、東急線、京急線、シーサイドライン

運行期間　：２月下旬～３月末（予定）
※各線により編成数、運行期間が異なります。

〇壁面・柱巻き広告、ポスター等の展開

・馬車道駅、元町・中華街駅、横浜駅、瀬谷駅、新横浜駅

〇カウントダウンボード設置

・新横浜駅、瀬谷駅、三ツ境駅

機運醸成の取組（神奈川県）

県のたよりへの掲載

県民へ広く周知するため、県のたより３月号にGREEN×EXPO 2027の囲み記事を掲載。

タイトル　　県のたより令和７年３月号（ No.840 ）
発行日　　３月１日
配布対象　　県内全市町村
駅、県の施設、市役所、町・村役場、
金融機関（横浜銀行、スルガ銀行、川崎信用金庫、湘南信用金庫）
コンビニエンスストア（ファミリーマート、セブン・イレブン）　など

表紙

囲み記事

オール神奈川での機運醸成

地元団体や花き生産者の協力のもと、幅広い世代へ向けて、GREEN×EXPO 2027のPRを実施

未就学児及び小中学生を
対象にしたイベント

高校生を対象にしたイベント

公園来園者を対象にしたPR

駅や役所で県産花きととも
にPRを実施

成人式で県産花きとともに
PRを実施

機運醸成の取組（国）

GREEN×EXPO 2027全国連携プログラム

「GREEN×EXPO 2027」と連携して、花・緑・農・食など「みどり（GREEEN）」に関する施策を一層進めていくため、全国の多様な主体との共創を目指した参画プログラムを開始。

登録プログラムにおいて、「GREEN×EXPO 2027全国連携プログラム公式ロゴマーク」を活用しながら、GREEN×EXPO 2027と一体となった取組を推進。

【登録対象】
花・緑・農・食等に関するイベント、体験プログラム、ツーリズム、シンポジウム、講演会、コンテスト等で、GREEN×EXPO 2027のサブテーマに合致するもの

【第１次募集】
募集期間　令和７年１月29日～２月26日
登録者数　88団体
※第２次募集は、令和７年夏頃を予定

みどりをはぐくむ
明日のために

食と農で
明日をつくる

【GREEN×EXPO 2027全国連携プログラム公式ロゴマーク】

機運醸成の取組（国）

花き関係者向けシンポジウム

花き業界関係者が大いなる挑戦をする機会として、２０２７年国際園芸博覧会の可能性を知るための講演やパネルディスカッションを実施

タイトル　GREEN×EXPO 2027の可能性　花き業界関係者の挑戦

日　　時　北海道・東北エリア：2025年１月18日（土）14時～16時
　　関東エリア：2025年２月１日（土）14時～16時

会　　場　北海道・東北エリア：仙台ガーデンパレス
　　関東エリア：サンシャインシティ文化会館

登 壇 者　農林水産省農産局園芸作物課花き産業･施設園芸振興室　室長　大塚裕一
　　全国花みどり協会　会長　澤田將信
　　公益社団法人２０２７年国際園芸博覧会協会　推進戦略室長　脇坂隆一
　　花の国日本協議会　理事長　井上英明（北海道・東北エリア）
　　副理事長　宮島浩彰（関東エリア）
　　株式会社NHK出版　趣味の園芸編集長　石原一樹（北海道・東北エリア）
　　株式会社スードリー　gui flower　前田有紀（関東エリア）

参加人数　北海道・東北エリア：75名
　　関東エリア：70名